

データ作成ツール紹介

見える化共通入力フォーマット 事業者向け GTFSデータ作成の事例

(一社) 日本バス情報協会 GTFS初任者講習会

2025年7月18日



公共交通利用促進ネットワーク 伊藤浩之

コミュニティバス、小規模事業者向け

見える化共通入力フォーマット

見える化共通入力フォーマット

①見える化共通入力フォーマットヘデータを入力

自治体
事業者名

停留所

系統

運行日

時刻

運賃

No.	停留所id	停留所名称	停留所名称かな	停留所名称(別名)	停留所名称(別名)かな	ポール別識別	その他特記事項	経度	緯度
1	1011	市役所	しやくしょ	〇〇市役所	まるまるしやくしょ	東方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
2	1012	市役所	しやくしょ	〇〇市役所	まるまるしやくしょ	西方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
3	1021	市役所東	しやくしょひがし			敷地内		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
4	1022	市役所東	しやくしょひがし			路上		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
5	1031	新町	しんまち					136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
6	1041	みえ駅西口	みええきにしぐち			1番	乗換拠点	136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
7	1042	みえ駅西口	みええきにしぐち			2番	乗換拠点	136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
8	1043	みえ駅西口	みええきにしぐち			3番	乗換拠点	136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
9	1054	みえ駅東口	みええきひがしうぐち			4番	乗換拠点	136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
10	1061	光が丘	ひかりがおか			東方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
11	1062	光が丘	ひかりがおか			西方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
12	1071	一番町	いちばんちょう			東方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
13	1072	一番町	いちばんちょう			西方向		136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
14	1081	公園住宅前	こうだんじゅうたくまえ					136.5xxxxxx	34.6xxxxxx
15									

GTFSのフォーマットの
構造を知らなくても
直感でわかります

メニューへ		路線シート作成				時刻表記に変換		路線番号		10		路線名		南北線			
このシートの上半分は「往路」 下半分は「復路」になっています。														通過停留所は「↓」で記入 ※「往路」「復路」「系統」「運賃」			
停留所名を記入すると、停留所idは、06停留所シートより自動でセットされます														復路へ			

②標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）データを作成 コンピュータで扱いやすい標準データ



見える化共通入力フォーマットとは

- 自治体担当者が入力がしやすいEXCELツール
 - 三重県と公共交通利用促進ネットワークの共同開発で誕生
 - GTFSのデータ構造を意識せずに、直感的に入力できるように考慮
 - 必要な項目に絞っているため、他のツールより入力項目が少ない
- 2016年に初版作成
 - 9年間の実績があります。
 - GTFS-JPの仕様改訂や、機能追加でバージョンアップを続けています。
 - 愛知・岐阜・三重・長野・富山・群馬・新潟・滋賀・岡山・広島などで研修会を実施
- ツール、解説書を公開しています
<https://www.rosenzu.com/net/mieru/fm/>

見える化共通入力フォーマット

検索

見える化共通入力フォーマット を使うとよいケース

- 自治体のコミュニティバスに最適
（15路線程度）
路線数が膨大になると 処理に時間がかかる
- 小規模バス会社
EXCELなどの手運用を行っている場合に最適
- 船、鉄道会社でも使用可能
→鉄道の場合、プラットホームの対応、路線をまたいだ運賃に対応する必要があるため、相談ください。

事業者向け

GTFSデータ作成の事例

GTFSデータの作成方法

- ①GTFS対応システムから出力できる
 - **ダイヤ編成システム**から出力
 - **バスロケーションシステム**から出力
- ②ダイヤ編成システム導入済み
 - ダイヤ編成システムから出力したデータから、GTFSデータを生成する「**コンバーター**」を作成
 - ダイヤ編成システムから出力したデータを、GTFSデータ作成**業者へ、データ変換を依頼**する
- ③GTFSデータ作成ツールを活用する
 - ダイヤ改正毎にデータの手入力が発生する
 - ダイヤ改正時に、手入力でデータ修正が、ダイヤ改正に間に合うかがポイント

①GTFS対応システムから出力 のポイント

- GTFS-JP第3版・Googleの審査に対応しているか
 - routeは、系統個別ではなく、路線名・系統ナンバリングごとに束ねる必要がある
 - translations.txt（翻訳データ）は、新形式であるか
- 必要なデータがそろっているか
 - 運賃
 - 運行日
平日、土曜、日祝日 以外に 特別な運行日に対応できるか
[特別な運行日] お盆、学休日、シーズン運行等
 - シェイプ（地図上に描く経路のデータ）・・・必須ではないがあると望ましい
 - 英語（停留所、路線名等）・・・必須ではないがあると望ましい
- 案内に必要なデータであるか
 - 業務用データをもとにしているため、案内に活用できるデータにする必要がある
停留所位置の精度、路線名・停留所名を案内に表記している名称にする
 - 行先・経由表記が適切か（方向幕・標柱時刻表の表記を意識）
Googleの審査では、循環系統は、地点ごとに適切な行先を表記に切り替える必要がある

②コンバーターの例

- ダイヤ編成システムは計画ダイヤ（平・土・日祝）を作成するものであり、GTFSデータでは**日々の運用ダイヤ**にする必要がある（学休日、シーズンダイヤ）
- 便のデータの記号を読み取る
 - 学休日記号から運行日カレンダー作成
 - 途中止まり記号から、行先に置き換え
- ダイヤ編成システムにないデータを追加
 - 運賃：定期券システム・運賃表示器データを活用
 - 路線カラー、多言語データ
- 契約輸送・スクールなど、案内しない路線を除外
- GTFS-JP第3版のルールに適合させる

17	久美	▲	▲		
18	▲	▲	▲		
19	▲	▲	▲		
20					
21	44				
22	44				
23	44				
0					

● = 学休日・土日祝運休
村 = 村山終由
細 = 学休日除く平日は細江駅前行

ダイヤ編成システムから
CSV・テキストファイル
を出力

多言語

運賃データ

など

コンバーター

取得できないデータは
コンバーター上で
メンテナンス



事業者の場合の Google審査対応

- コミュニティバスの場合に比べて Googleの審査対応が難しいことが多い
 - 路線数・停留所数が膨大
→審査での指摘項目も膨大になる
 - 業務用のデータをもとに出力・コンバートすると、案内に適した精度になっていない。
(ダイヤ編成システム・運賃表示器データなど 元のシステムからメンテナンスしないといけない)
- Google掲載の取り組み例
 - 全エリア一度に対応するのではなく、特定のエリア・路線のみで、Googleへ登録。
路線数が少なければ、審査の対応が行いやすい。
審査の対応のコツがわかれば、徐々にエリアを広げての対応が容易になる。